



新橋小学校

# 学校だより

令和3年5月31日  
令和3年度 第3号

## 困難を乗り越えて！

副校長 清水 浩一

新年度が始まって、もうすぐ2か月が経とうとしています。昨年度の今頃は、まだ一斉臨時休校中でした。6月からようやく分散登校や短時間授業が始まろうとしていました。行事もできず、子どもたちが集まる学校で、どのように感染症対策を行いながら生活していくのか、情報収集に努めながら試行錯誤の日々でした。そういった昨年度の状況を考えると、子どもたちが毎日、学校に通い、例年通り午後まで授業を受けて下校する姿が本当にありがたいと感じている日々です。これからも新型コロナウイルスの感染症対策をしっかりと行いながら、子どもたちが一生懸命学び、友達と楽しく遊び、そして元気な声が響きわたる学校を目指していきたいと思えます。

校内を見て回っていると、学年目標や学級目標を決め、目標に向かって活動している様子が見受けられます。少し前になりますが、先月、6年生が学年集会をしていたところに遭遇しました。6年生の先生たちが、学校行事等の予定を書いた大きな用紙を見せながら1年間の見通しや、この1年をどのように過ごしてほしいか、そしてどのように成長してほしいかなどを話していました。子どもたちは、どんな行事があるのか、1年間になるのか、興味をもって聞いていました。修学旅行や部活動体験など、子どもたちが楽しみにしている行事も書かれていました。そんな中、1人の先生が次のようなことを子どもたちに話していました。

「去年の人たちは、ここに書いているもの（行事）はほとんどできないまま卒業していったんだよ。普通にできることが当たり前と思わず、一つ一つの行事ができるありがたさを感じて一生懸命取り組んでほしい。」

私は、昨年度の悔しい1年間を過ごしたからこそその言葉であると、聞いていて感動しました。昨年度の6年生の気持ちをしっかりと受け止め、次につなげようとする思いが感じられたと同時に、大切な視点を子どもたちに与えていたと思いました。多くの子どもたちが「できて当たり前」と思っていたせいか、一瞬、その場の雰囲気が変わったのを覚えています。

一つ一つの活動には意味があります。その活動は何のためにするのか、活動を通して何を学び、どんなところが成長したのか。昨年度、活動が十分にできなかった経験をしたからこそ、私たち教員だけでなく、子どもたちにもしっかりと考えて活動に取り組んでほしいと思えます。そうすることで、一つ一つの活動が洗練され、教育効果も高くなるものと考えます。

まだ新型コロナウイルスの感染収束が見えない状況の中、昨年度の経験を踏まえて教育活動を行っています。今年度も感染状況によっては、予定が変更になることもあるかもしれませんが、ご理解のほど、宜しくお願いいたします。